

『一緒に話してみませんか？あなたと薬のこと ～入院編～、～在宅編～』 Webで公開！

「くすりのしおり[®]」を活用した、薬剤師と患者さんとのコミュニケーション促進動画第二弾

くすりのしおりコンコーダンス委員会

平成25年1月に公開した、薬剤師と患者さんとのコミュニケーション促進のための動画『一緒に話してみませんか？あなたと薬のこと』*の第二弾として、『入院編』・『在宅編』を当協会のホームページに公開しました。

くすりのしおりコンコーダンス委員会では、患者さんと医療者（主に薬剤師）のコミュニケーションツールとして、服薬説明書のひとつである「くすりのしおり[®]」が有効活用され、“コンコーダンス”の実現が円滑に行われることを目標に挙げています。“コンコーダンス”とは、『患者と医療者が同じチームの一員』と考える概念で、患者さんと医療者がパートナーシップに基づき、両者間で情報共有し、対等な立場で話し合ったうえでよりよい治療（服薬も含む）を決定していくことを目指します。

今回の動画は『入院編』、『在宅編』とそれぞれ異なる場面での、薬剤師と患者さんとのコミュニケーションについてドラマ仕立てで紹介しています。動画はホームページより無料でダウンロードもできますので、ぜひお役立てください。

動画のストーリー

入院編

早期胃がんと診断され初めての入院や手術で不安を抱えている患者さんが、病院薬剤師と話すことで不安を解消し、手術後の服薬にも前向きに取り組んでいく

《監修》・帝京平成大学 薬学部 教授 井手口 直子先生
・慶應義塾大学病院 薬剤師 緩和ケアセンター専任薬剤師 金子 健先生



在宅編

薬剤師が患者さんのちょっとした変化に気づき、患者さん宅を訪問したところ、そこには家庭における残薬の問題が存在していた。「くすりのしおり[®]」を使って、残薬整理や患者さんの家族との情報共有をしていく

《監修》・東京理科大学 薬学部 教授 伊集院 一成先生



動画はくすりのしおり[®] ホームページから
ご覧いただけます
<http://www.rad-ar.or.jp/siori/concordance/consult.html>

*動画：『一緒に話してみませんか？あなたと薬のこと』
(Part1,Part2)

服薬が長期にわたることが多い脳梗塞の治療を例にとり、Part1：初めて飲む薬を処方された時、Part2：治療を続けるために～一年



後～、と異なる場面での薬剤師と患者さんのコミュニケーションを収録しています。